

市長記者会見

令和3年12月27日（月）

（NHK）それでは、今年最後の定例記者会見よろしくお願ひします。まず、市長のほうから報告事案をお願いいたします。

（上定市長）よろしくお願ひします。年末最後ということで、項目数が多くなっておりますがお付き合いください。

まず1点目、松江市立病院の産科の医療訴訟判決への対応でございます。まず、経緯からご説明しますと、平成24年の3月に市立病院での分娩の際に、女児の方が仮死状態でお生まれになるということがございました。その後、脳性麻痺を発症され、平成26年に呼吸不全により亡くなられております。29年の11月にご両親が提訴され、12月13日に松江地裁の判決が出たという状況です。判決の要旨は、「助産師による医師への報告、立会い要請が早ければ、重度な後遺障害が発生しなかった蓋然性が高い」というものでした。原告、ご両親に対し、市立病院から損害賠償として5,600万円余りを支払えという判決が先般出ました。これに対する市立病院の対応として、判決を受け入れ控訴はしないということをご報告します。ご両親の心痛はいかばかりかと思ひます。市立病院としましては、今後再発防止に努め市民の皆さまの安心安全、健康を守る役割を引き続き果たしてまいりたいと考えております。

2点目は、「松江市文化財保護活用地域計画」の認定についてです。これについて12月17日に文化庁長官の認定をいただきました。これは非常に誇らしいこととして、全国では48自治体目ということになります。県内においては4自治体目、出雲、益田、津和野に次いでということですので、全国の12分の1を島根県が占めているということも、また県民として非常に誇らしいことだと思ひております。この計画は文化財保護法に位置づけられており、保存と活用に関する総合的な法律に定められた計画となります。松江市において、この総合計画を策定するのは初めてとなります。松江市の文化財ということで少し自慢をさせていただきますと、まず全国の中核市、これ62市ありますが、この中で国指定、あるいは選定の文化財の数は全国で第5位となっています。中四国・九州では第1位でございます。また国宝建造物が神魂神社の本殿、松江城天守の2件、そして、天然記念物の国宝と言われている特別天然記念物に指定されている八束町の溶岩隧道もでございます。佐陀神能はユネスコ世界無形文化遺産となっています。松江の歴史文化が、この文化財に物語られている点が多々あると言われている。こういった視点も今回の計画の中にまとめており、例えば、交通・交流の拠点であったこと、松江城の城下町、水が育んだ豊かさ、古代出雲文化発祥の地であるということ、そしてものづくりの伝統文化が息づいています。さらに、お茶どころであり、ジオパークにも認定されている地質遺産の宝庫である。最後に、国際文化観光都市として法律で指定されている全国でたった3つの都市のうちの一つであるといったところが上げられます。この計画の将来像として、「誰もが松江の歴史文化を誇りに思ひ、こころ豊かになれるまち」とし、基本方針として一つは文化財の確実な保存と価値の発信・共有。次に、文化財を生かしてまちづくり、そして

文化財の保存・活用を支える人づくり・仕組みづくりをしていくということです。これから重点的に取り組む事業として、「誰もが松江の歴史文化を誇りに思い、こころ豊かになれるまち」の実現に向けて、まず調査研究の推進をしてまいります。地域での文化財の調査、そしてその内容について発信し、市民の皆さまとともに、調査研究を進めてまいります。また文化財指定等の推進、先ほどのような調査研究を通じて文化財指定を推進してまいります。具体的には先般12月17日には田和山遺跡に神後田遺跡を追加指定するという文化庁の答申も受けております。さらに文化財を積極的に活用するというので、例えば同志社大学の先生にご協力いただいて国宝松江城天守のVRを作成していただいております。こういったデジタル技術も活用して文化財の魅力を発信してまいりたいと考えています。最後に歴史文化を生かしたまちづくりです。「職人商店街」ということをよく言わせていただいておりますが、伝統文化、そしてまた伝統工芸を生かして松江にある古くてよいものに磨きをかけ、それを点から線に結ぶ「職人商店街」の検討を行います。また、美保関灯台が重要文化財にも指定されましたが、美保関地区にあります伝統建造物群の保護地区制度の導入の検討、さらに「歴史まち歩き」を実施していますが、これに市民の皆さんにも参加していただき、松江にある魅力を確認していただくということも続けてまいります。「松江らしさ」とも言える松江の魅力の土台はこの豊かな歴史文化にあると確信しております。今後も市民の皆さまと一緒にこの歴史文化を生かしたまちづくりを進めてまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

次に、「松江GENKI夜市チケット」についてです。先般発売しましたが、今回2次販売をすることを決定いたしました。これは共通チケットと夜限定チケットと2種類がありますが、それぞれ1回当たり2セットまで販売いたします。ウェブでの販売に加えて、皆さまのご要望にお応えして窓口での販売も決定しました。ウェブでの販売は既に12月24日から開始しており、完売次第終了としております。予約制で、コンビニエンスストアのローソンで発券するということになります。窓口の販売は、1月15、16、22、23日の朝10時から夕方4時まで、予定数は限定しておりますが、くにびきメッセ3階国際会議場で販売します。チケットは2月28日まで使えます。共通チケットは4,000円で6,000円分の使用ができ、夜限定のチケット、は夕方4時以降からで4,000円で6,500円分使うことができます。タクシーあるいは代行についてもこのチケットは対象となっております。ぜひお買い求めください。

次に、消防出初め式のフォトコンテストについてです。令和4年消防出初め式が1月8日に行われます。これに併せてフォトコンテストを実施します。場所はくにびきメッセで屋内式典、松江城山公園内の内堀で放水を行います。新型コロナウイルス感染症対策のため屋内式典は観覧・撮影はできません。くにびきメッセの外で始まる分列行進からは、ぜひ皆さんに写真を撮っていただき、ご応募いただきたいと思っています。締切りは1月19日で、詳しい募集内容はホームページをご覧ください。皆さまからのご応募をお待ちしております。

次に、公共下水道40周年記念のマンホールの蓋デザインの募集についてです。今回、松江市の公共下水道の40周年を記念し、マンホールの蓋のデザインを募集します。目的としては、下水道の役割について多くの人に理解や関心を深めていただくきっかけとしたいということです。松江のユニ

ークな魅力を発信、共有できるようなデザインをご応募いただきたいです。県外、市外の在住の方でも構いません。応募方法は、松江市下水道局のホームページから応募用紙とデザイン用紙をダウンロードしていただき、それにデザインを描いてご提出ください。小学生以下と一般部門の2つに分かれており、それぞれ優秀賞を2作品ずつ、そして全体を通して最優秀賞を1作品選び、最優秀賞受賞作品を松江市内の統一デザインとして採用します。来年の4月15日まで募集しておりますので、ぜひご応募ください。

次に、学習スペースのご紹介です。12月15日の定例記者会見でも学習スペースについてお話をしました。中高生の皆さんから、学習スペースが少ないので設けてほしいという要望をいただき、松江市市民活動センターと松江テルサに新たに設け、また既存の施設として松江市立図書館、市内の公民館が利用できます。さらに今回、新たな学習スペースをご紹介します。松江駅前にあります島根銀行の本店において学習スペースをご提供いただいております。今回我々のほうで紹介してもいいという許可をいただきましたので、ご紹介します。本店ビルの3階の大会議室に50席用意いただいております。11月から既に利用できまして、来年の3月27日まで、土日、祝祭日のみ利用できます。土日でも利用できない日も3日ほどございますが、12月31日から1月3日までの年末年始も利用できます。学生の皆さんにはぜひご利用いただければと思います。対象は中学生と高校生となりますので、大人の方はご遠慮ください。利用料は無料で、先着順となります。ごみは全部持ち帰るなど、皆さんが勉強がしやすい雰囲気を保つての利用をお願いします。今回、島根銀行さんのご厚意によりましてこの学習スペースを設けていただき、また皆さんにPRをさせていただきました。無料で利用できる学習スペースの情報がありましたらぜひ市民生活相談課まで情報をお寄せいただき、これから受験シーズンを迎えますので、皆さんに共有し、学生の方々ができるだけ勉強しやすい学習スペースをお知らせしてまいりたいと思っております。また、例えば各企業のオフィススペースで使ってもいいところがある、あるいはホテルの会議スペースなど学習スペースに活用できるというところがありましたら、ぜひご連絡をいただきたいと思っております。

次がワクチンの3回目の追加接種の前倒しについてでございます。これは国のほうから示されている方針でして、2回目接種から8か月以上空けて接種することとなっておりましたが、そのうちの医療従事者また高齢者福祉施設等入所者・従事者、そして高齢者の方に前倒して接種を行うというものです。一般の方は原則として8か月以上経過した際に接種券を送らせていただいて、接種を受けていただくということになりますが、医療従事者については8か月から6か月、高齢者福祉施設等入所者・従事者についても同じく6か月、高齢者については8か月から7か月の前倒しをします。接種券の発送につきましては、間違いを防止するために6か月を経過した翌月、7か月目に送ります。対象者ごとにそれぞれ可能な限り前倒しを行います。必ず接種券が届いてからの予約をしていただくということになります。医療従事者の方はもともと3月までに接種を終える予定でしたが、それを2月までに終わらせていただきます。高齢者等施設の入所者・従事者についても、同じく2月までに、高齢者の方は、4月までに終わるといった形で行いたいと考えています。

最後に、これから年末年始を迎えるに当たりまして、私のほうから市民の皆様へメッセージを送

らせていただきます。

市民の皆様には改めてのお願いとなりますが、穏やかで落ち着いた年末年始を過ごしていただくために、日常生活での新型コロナウイルス感染症対策の実践について、お願いさせていただきます。松江市でのコロナ感染につきましては、今年7月から9月にかけて、クラスターの発生などにより感染が急拡大して（感染拡大の第5波が起こり）、8月には、新規感染者が280人を超え、ひと月あたりとしては過去最多の感染者数を記録しました。

そのため、8月、9月、10月の3回にわたり、私から市民の皆様へ、手指消毒、3密の回避や、県外移動の自粛などの感染防止対策の徹底について、お願いさせていただきました。その後、ワクチン接種も含め、市民の皆様にご理解とご協力をいただいたお陰様で、10月6日以降昨日まで、2か月と20日間にわたって、市内で新規感染は確認されておられません。11月には、島根県が、感染予防対策の継続を前提に、県外移動や会食、イベントなどの自粛要請を撤回されたこともあり、徐々に社会経済活動に活気を取り戻していきたいと考えています。一方、現在、世界各地で、新型コロナウイルス感染症の変異株であるオミクロン株の感染が広がっています。オミクロン株の感染力や重症化リスクなどはまだ十分解明されておらず、警戒が必要です。国は水際対策に取り組んでいますが、国内での市中感染も確認されており、感染拡大が懸念される状況にあります。特に、この年末年始は、帰省や旅行によって人の往来が活発化します。そこで、改めて、市民の皆様へ、新型コロナウイルス感染症対策の継続についてお願いをいたします。年末年始には、コロナ感染予防のための松江流の生活様式をまとめた『ま・つ・え・じ・よ・う』に沿った行動を心掛けて、日常生活を過ごしていただきますようお願いいたします。そして、日頃から健康管理にご留意いただき、わずかでも体調不良を感じたときには、ためらうことなく仕事や学校を休み、医療機関に相談・受診して、積極的に検査を受けてください。寒さの厳しい季節には、部屋の換気に億劫になりがちです。手指消毒や3密の回避など、基本的な感染防止対策に合わせて換気の実践をお願いします。最後に、新型コロナウイルス感染症は誰でも感染する可能性があります。感染した方やそのご家族、医療関係者を励まし、応援する思いやりの気持ちを忘れずに、松江市民一丸となって、この難局を乗り切ってまいりましょう。私たち一人一人の感染防止対策が、穏やかな日常をつくります。引き続き、一緒に取り組んでまいりましょう。私からの説明は以上となります。

(NHK) ありがとうございます。まず幹事社から2点ほど質問させていただいて、その後、皆さんに質問をお願いしたいと思います。まず、ワクチンの前倒し接種ということで、従来よりも接種の期間が短くなると思いますが、ワクチンの供給は十分でしょうか。

(上定市長) 県あるいは国と確認しながらやっており、今のところ特に懸念はありません。先ほど、医療従事者、高齢者福祉施設入所者と従事者は2か月前倒し、高齢者は1か月前倒しと申し上げました。これは十分なワクチンの供給を受け、それを提供する体制を組み、3月までの予定だったのを極端に1月までに前倒すのではなくて、若干余裕を持たせて2月までに行うということにしております。ワクチンの供給量、そのワクチンを接種する医療従事者の確保といったところも、可能な状態を確認して取り組んでまいります。

(NHK) もう1点は原発の関係ですが、島根原発2号機について、先般市議会で早期再稼働を求める陳情が採択されました。その後、議長への取材の際に、議会と最終的な意思の確認を行う場合は市長のほうから設けられるだろうということでした。当日の市長への取材の中で、具体的に話をしているところはないというお話でした。まだ1週間ほどしかたっていないんですが、何か新しい動きはございますか。

(上定市長) 特にはございません。どういう形で議会と協議していくかということも含めて検討しております。

(NHK) もう一度、何かしらの形で確認する場合は必要というお考えでしょうか。

(上定市長) 今後検討を進めるに当たって、必要な確認はしてまいりたいと考えております。

(NHK) 分かりました。ありがとうございます。では、皆さんいかがでしょうか。

(朝日新聞) ワクチンの関係で教えてください。8か月が6か月になると2か月の前倒しが、実際には1か月の前倒しとなっています。これはどういうことですか。

(上定市長) 国からの指示が、8か月の間隔を空ける予定であったのを6か月の間隔でも打つことができるということにして、例えば高齢者については、この8か月に1か月前倒して7か月以上で接種が可能になるという指示がありました。もともと高齢者は5月までを予定していましたが、4月末までということになって1か月前倒しということになります。医療従事者と高齢者施設の入所者についても本来であれば2か月前倒すことができます。ただ、先ほど少し申し上げた医療従事者の方を確保して万全な体制で取り組むということで、ある程度余裕を持った形での接種をしてまいりたいと考えておまして、結果的に1か月の前倒しという形で進めようと考えております。

(読売新聞) 病院の判決についてですが、松江市として判決を受け入れるべきと判断された理由をもう一度お聞かせください。

(上定市長) 裁判所の判決について、内容を市立病院と精査した上で、まず原告、ご両親のご心痛にできるだけ真摯に向き合って寄り添うことが重要だと判断し、判決を誠意を持って受け入れ、控訴しないという結論に至ったところです。

(読売新聞) 判決を受け、市としてはご両親のお気持ちに寄り添うことが大事だと判断されたということですか。

(上定市長) 判決の内容を踏まえて判断をしたということになります。

(共同通信) 病院の件ですが、判決が出た日に原告側のご両親が病院からの謝罪がまだないということをおっしゃっていましたが、その後謝罪などは病院側からあったのでしょうか。

(上定市長) 控訴するかどうかということを含めて、確認などをしておりました。私も新聞を通じて、原告の方が誠意を持った対応がないのではないかというコメントにあったということは、了知しております。いわゆる裁判で争っておりましたので、見解の相違といえますか双方の言い分があると思いますので、そういったやり取りの中で、ご不安あるいはご不満を持たれた点があったという気がしております。今後の対応につきましては、本日、控訴しないということを発表しましたので、必要に応じて対応してまいります。

(NKT) 先ほど、感染防止対策を呼びかけられました。年末年始、島根県は帰省の自粛など求めています。松江市としてもこの年末年始の帰省というのは行ってもよいというお考えでしょうか。

(上定市長) 今の段階で、帰省の自粛等の要請を行う予定はございません。10月6日以降3か月弱にわたって新規の感染は確認されていない状況です。ただ、ここで気を抜くとまた8月のような感染の状況になる懸念がゼロではありませんので、一旦ここで気を引き締め直すことは重要だと思っています。一方で、経済活動の再開も含め感染予防との両立を図ることも重要だと考えています。今のこの状況が続けば、日常を取り戻すことも来年のうちには可能になるのではないかと期待感も持っています。

(山陰中央新報) 今年最後の会見ということで、1年を通して4月には加賀の大火もありましたし、コロナも続いています。大雨被害もありました。原発も合格が返ってきました。激動の1年だったと思いますが、この1年を振り返ってみてのお気持ちはいかがでしょうか。

(上定市長) 4月に市長に就任しましたが、その少し前に島根町加賀の住宅火災があり、そして就任してすぐの7月に大雨、8月に台風もありました。そして新型コロナウイルス感染症については、8月に非常に多くの感染者が確認され、市民生活あるいは企業活動に非常に大きな影響を及ぼした1年だったと思います。私も、4月の就任以降、特に危機管理についてできるだけのことをやってきました。そしてまた、市民の皆さまからご理解、ご協力をいただき、特にコロナの感染については、小康状態を保つことができている、皆さまのおかげだと考えております。色々な制約あるいは我慢を重ねて今年を乗り切ったということに我々は自信を持っていいと思っています。まだ予断は許しませんが、来年の経済活動の再開、社会活動の活発化に向けて、松江市も行政としてできることを取り組んでいきたいと考えており、引き続き市民の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

(山陰中央新報) 4月に就任され、ここまでの手応え、そして課題について何か感じられていることがあれば教えてください。

(上定市長) できるだけ多くの市民の皆さんに直接話を伺い、そして直接足を運び現場感を持って今後も行政の仕事を行いたいと考えています。多くの方から強い期待をいただいているというのは、就任以来ずっと実感しています。具体化していくためのアイデアも市民の皆さんからいただいていると感じています。何より職員ともしっかりと対話をしていまして、色々なアイデアも出てきています。今年は災害やコロナの対応ということが急務であり、喫緊の課題として取り組んでまいりましたが、来年以降穏やかに落ち着いた状況を取り戻せば、前向きで新しい松江を魅力的にするための取り組みに力を入れていきたいと考えています。今年は優先順位をつける中でなし得なかったことも含めて、来年はチャレンジする年にしていきたいです。

(山陰中央新報) その中で、市民に周知する機会としては今現在行われている新年度予算の編成作業があると思います。どのような方針で編成していかれるのか、現時点でのお考えで結構ですのでお願いします。

(上定市長) チャレンジという言葉を使わせていただきましたが、松江が、抽象的になりますが、

市民の皆さんにとって誇りの持てるまちになるような、予算編成あるいは政策を実行してまいりたいと考えています。松江で生まれ育った私自身も含めてですが、なかなか市民の皆さんが能動的に松江のすばらしさを自慢できていないと感じるところがあります。自慢できるまちにしていく、自分たちがこのまちに誇りを持つことができれば周りから見たときにもやはり光り輝くまちになり、本当に愛着や誇りを持って我々が暮らせるまちになるのではないかと考えておりました、抽象的で恐縮ですがそのための予算編成というのを今後検討していきたいと考えております。

（山陰中央新報）今年1年を漢字で表していただけませんか。

（上定市長）漢字ですね。「守」です。今年1年は、守りを固めた1年だったと思っています。先ほども申しましたが、災害対応、新型コロナウイルス感染症対策というところをしっかりとディフェンスした年でした。これは当然市民の皆さまのご協力のおかげです。来年は守りながらも常に攻めの姿勢を、繰り返しになりますが松江を市民の皆さんが誇れる松江となるように、対外的な発信も含めてチャレンジしていく1年にしていきたいと考えておりますので、何とぞご協力をよろしく願います。

記者の皆さん、市民の皆さん、今年1年大変お世話になりました。来年も皆さんにとってすばらしい年になるように行政として頑張っただけでまいりますので、引き続きご協力、ご理解のほどよろしく願います。よいお年をお迎えください。ありがとうございました。